

ナ・サインチヨクト（サイチンガ）

〔内田敦之訳〕



青絹のテルレク▼〔1〕

草原の緑の丘に

まだ新しい純白のゲルに住む

聡明な娘の

気持ちを知る由もない

青絹のテルレクを

しっかりと綺麗に縫っている

愛らしい娘さんよ

いったい誰のために縫うのか知る由もない

ふくよかな紅い頬

柳の葉のような眉

気立てのいい娘の

器用さと言うまでもない

そこらの絹とはちがうのだ

際だつ原色をはなつ

きらきら光る目の娘が

選んで手にした絹なのだ

器用でしなやかな手の

動きのすばやいこと！

橙色の縁飾りを

縫いつけている姿の美しいこと！

あわてた様子で縫っているのに

その丹念さに驚かされる

どんな人のためなのかと

話しかけて知りたいという思いにかられた

「とても綺麗なテルレクだね。

自分のために縫っているの？」と

〔1〕テルレク 夏用のデール
（ウンブーの民族衣装）

苦勞知らずのうら若き娘に
想像しながら聞いてみた

「いいえ。私のじゃないんです。
自分で着るなら
緑色のテルレクに
赤い縁飾りを縫いつけますよ」と言った

「旦那さんに
縫ってあげてるの？」と
聡明な娘に
根ほり葉ほり聞いてみた

「私は一ハで
まだ嫁いでいません」と
ゆっくり答えながら
くつきりと美しい瞳がほえんだ

「それじゃ
お兄さんのために縫ってるんだね」と
はにかみやの娘に

もういちど聞いてみた

「私は
二人姉弟なんです
甘えん坊でかわいい弟は
いま学校の寮でくらしています」と言った

「それじゃ、いったい誰のテルレクなんだい？」と言うと
はつきりとは答えてくれず
恥じらいに下を向いて
笑みを浮かべて顔を赤らめた

若盛りの
知り合いでもないよその娘さんに
ぶしつけに質問をあげせて
私はなすすべを失った

熱いお茶に乳を混ぜながら
見ていたお母さんが
気まずい雰囲気を感じて
そばで話を切り出した

「今どきの子どもたちは
自由でいいわね

好きなことなら何でも

自由にできる幸せがあるんだから

あの暗黒の社会で

苦勞した私たちは

かわいいわが子のこと

口出ししてやめさせたりはしないよ

幸せいっぱい生まれたわが娘は

とても働き者なんです

近所の人たちもみんな

氣立てのいい娘だと誉めてくれるんですよ」と言った

空色のスカーフを

(頭から)首に下ろして身につけ

赤褐色の顔をした

娘は笑顔をうかべている

「その縫い物をすこし置いて

冷めないうちにお茶を飲みなさいよ」と

慈愛に満ちた母親が

さらに続けてそう言った

「アイマク▼(2)のナードム祭の前に

間に合わせようと思っているのよ、お母さん」と

うっかり口をすべらせてしまい

どうにもならなくなってしまった

愛らしい娘の

真っ黒な髪を

優しくなでながら

母はこういうのだ

「ウヌル家の息子ジャルガルサインは

誠実な青年だわ

『模範的労働者』になったと

みんなからも愛されているよ」

幸せな時期にいる子どもたち

運命的に生まれた子どもたち

(2) アイマク モンゴルの行政単位。モンゴル国は「県」と訳すことが多いが、内モンゴルのそれには漢語の「盟」が当てられる。

お互い気心が知れているなら
好きにすればいいわ」と言った

「もう。めちゃくちゃ言っただけ
お母さんはいつもそうだわ
よその男の子が良い子かどうか
私に何の関係があるのよ」と

糸と針をさつさと進めて
機嫌を損ねたようなふりをしているが

「そうよ、その通りだわ!」とアピールするように
朱に染まった顔は喜びに満ちている

草原の緑の丘に

まだ新しい純白のゲルに住む

聡明な娘の

気持ちを知る由もない

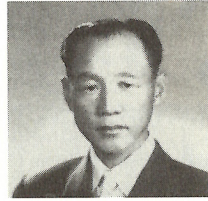
青絹のテルレクを

しっかりと綺麗に縫っている

愛らしい娘さんよ

いったい誰のために縫うのか知る由もない

(一九五四年六月)



ナ・サインチョクト (サイチンガ) Na Sainchogt (Saichingao) (一九一四～七三年)

【作家紹介】

内モンゴル・チャハル・グルフフ (正藍旗) 生まれ。一九三七年日本へ留学、一九四一年東洋大学卒業。内モンゴル近現代文学の基礎を築いた作家のひとり。主な作品は「心の友」(一九四二)、「ランパートル」(一九四八)、「私たちの雄壮な叫び」(一九五五)、「シヨロフフ賛歌」(一九六二)など。元々ジャグフレブという名であったが、一九三四年結婚を機にサイチンガに変え、一九四七年モンゴル人民共和国から帰国後サインチョクトと改めて以来、父ナスンデルゲルの頭文字をとってナ・サインチョクトと呼ばれるようになった。文化大革命でモンゴル人民共和国のスパイと断罪され長く強制労働に就いた後、一九七三年上海で病没。作家については、バイカル「サイチンガの人と作品」(上)(中)(下)、『東洋大学大学院紀要』第三三～三五集に詳しい。

(内田敦之)

【作品解説】

一九五〇年代後半から六〇年代にかけて内モンゴルは、中国でおこった反右派闘争、大躍進、文化大革命など政治的混乱の影響が及び、中ソ対立によりモンゴル人民共和国との関係も断絶されるなど暗黒の時代を迎える。この詩はその直前につくられたため政治的色彩から自由であるという点で高い評価を得ている作品である。新しい恋愛のあり方を通じて、自由な時代を迎えた喜びだけでなく旧世代の戸惑いをも映し出している。

(内田敦之)

МОНГОЛЫН УРАН ЗОХИОЛ

Г а р ч и г

Өмнөх үг

Нэгдүгээр бүлэг: Орчуулга

I. Монголын орчин үеийн яруу найраг

Ч. Чимид

Б. Явуухулан

Д. Пүрэвдорж

Р. Чойном

О. Дашбалбар

Б. Лхагвасүрэн

Ц. Хулан

Б. Галсансүх

Д. Банзрагч

〈Өвөр монголын яруу найраг〉

На. Сайнчогт (Сайчингаа)

Монголчуудын хэрэглэж ирсэн бичгүүдийн тухай

II. Монголын хүүхдийн уран зохиол

Ж. Дашдондог 〈Долоон бөхтэй тэмээ〉

Д. Гармаа 〈Хөгжөөнтэй туужууд〉

Аман зохиол

III. Монголын орчин үеийн шог зохиол

Б. Цэнддоо 〈Онигоо〉

Жүжиг ба уран зохиол

IV. Монголын орчин үеийн өгүүллэгүүд

Д. Төрбат 〈Могойн чуулган〉

П. Баярсайхан 〈Хөх туурийн тал〉

Шаг. Цэнд-Аюуш 〈Хэцүү амьтан〉

Ч. Лодойдамба 〈Миний хээр (хуучин цэргийн яриа)〉

Ц. Дамдинсүрэн 〈Бух Гомбо〉

Д. Нацагдорж 〈Харанхуй хад〉

〈Хальмагийн уран зохиол〉

Балакан Алексей 〈хүрвн зург〉

〈XIX зууны Монголын уран зохиол〉

Инжаннаш 〈Нэгэн давхар асар〉

モンゴル文学への誘い

2003年10月28日 初版第1刷発行

編 者 芝 山 豊

岡 田 和 行

発行者 石 井 昭 男

発行所 株式会社 明石書店

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-14-11

電 話 03 (5818) 1171

F A X 03 (5818) 1174

振 替 00100-7-24505

<http://www.akashi.co.jp>

組版 明石書店デザイン室

印刷 モリモト印刷株式会社

製本 株式会社難波製本

(定価はカバーに表示してあります)

ISBN4-7503-1808-6